樣 判

ィ

夫

カ

ラ

近

N

藻

胞 ŋ

子 = 肼 力 K ラ ヶ 結 毎 實夫 月 都 カ ラ 流 3 失迄 イ 時 , = 經 其 過 場 ヲ 所 知 採 v 事 集 ガ 出 番 縣 近道 ケ テ デ 7 车 中 變 化 ヲ 知 w ŀ 共 = 车 中 1 海 藻 種 類 ヲ 知 IJ 其

最 幼 後 = 辟 Ħ 誰 ガ 言 ŀ ナ カ = 聞 ŋ 所 デ 7 n ガ 海 藻 ナ **ا**،" ハ Æ ゥ 丰 ヲ 出 ス 餘 地 ガ ナ 1 デ ハ ナ 1 力 ŀ 云 フ 樣 ナ 事

懇 聞

大

キ IJ

ナ テ

木

Ŧ

伐

IJ

藪 デ

ヲ

拓

イ

テ 分

先

ッ

۴

チ 君

行 ١,

"

۴, X

道

ŀ

大 1

通

y 1

, ガ

道

路

ヲ

開

1 10

刄

位

1

Æ r

1

デ

遠藤

君 北

ガ 海

其 道

中

デ

ガ

外

事

7

iv

自

7

寂

藤

ナ

ゕ゙

ッ

=

ハ

違

ナ

~

7

言

ハ

自

分

ヌ

開

萬 處

來

何

K = ŋ

=

ラ ŀ ゥ 何 v 百 ナ ッ **ا** 何 ŀ 小 千 言 部 落 世 フ 人 帯 ッ 村 ガ ガ 落 ァ 狣 テ ヲ N ソ 作 モ ゥ オ ッ × ク ヌ 樣 ラ ガ デ 夫 ナ Æ Æ ハ 私 住 デ = 乙 處 判 ~ ラ ダ ナ 7 7 イ チ n ラ Æ ŀ 7 云 = フ Æ ハ 即 狀 **=** 態 チ チ 從 ラ デ 來 ア = 調 モ n 査 未 事 サ 開 テ V = 濞 ァ 3 居 鄙 ラ n n ŀ ガ 何 私 残 種 = " 判 , = テ 充 居 ラ 7 テ ヌ n 力 ` Æ ラ ŀ 3 千 ナ 云 イ ラ 力 客

゙ヺ ナ 種 譯 ナ ダ 才 デ ナ 云 イ フ 事 誠 = デ ع 7 $ar{h}$ で デ 各 夫 ナ ガ ス 間 グ H 違 本 ッ デ Þ 話 初 メ デ · 7 テ 見 付 ケ ラ v テ 未 Ŋ. 世 界 = 知 ラ v 居 ナ 1 Æ デ N

棲 U 力 ラ ン 海藻 發 デ 笙 居 シ v 發生 4 J 長 デ 一狀態 別 シ 結 = 採 ヲ 實 弘 集 ス ŋ N ナ 研 **F**" 迄 究 セ 順 ୬ ズ

場所

於 海 海

イ

ナ ィ

v .D

資

献

ヲ

此

學

爲

=

齎

ス

,

デ

7

v

或

۱ر

發

生

力 視 海

ラ 察

見

タ jr **≥**⁄

同 ,

屬 大

各

種 斯

ŀ 道 人

力

叉

ハ

關

係 ア

ァ N

jν

各

屬

1

ヺ

厭

序 ŀ

經

過 常

ヲ =

ス

Æ デ

ナ ラ

N v

貢

が献デ 其

更 秋

= 冬

斯 =

比ル於

Æ

=

親

ン

居

w

ナ

ラ

海

春

夏

ヌ

デ

7 デ 大 テ

ナ 力 =

海 範 圍 誠 = 研 究 , 餘 地 ガ 多 1 , デ ァ w 力 ラ 自 分 此 方 面 = 向 フ ŀ 云 フ 人 , 爲 = ハ 敢 テ勢

伯 植 物採集會 (承前

中 野 治 房

理

學

博

1:

植 物 採 集 會 記 (承前



島 孔雀

デ

ナ 孔

强 島

ヲ

助

ケ

ŀ

≥ Ι.

叉

船

+

半

7

前

集 線

リ渡

ヲ

超

タ

水

流

語

ラ

ス

一此

人處

尾ハ

舵

ヲ ナ

取 1

> IJ ガ 時

渡 可

N

1 y 雀

デ

7

(彩色繪ハガキニ據ル)

如 タ

D 此

主

森樹ノ林デ之ニ

ラ即

チ

らかんば

沙

合

=

明 ~

1 ッ 孔 テ

森

デ森下

ハ

種

ガ

1

ワ

Ţ

河

原

力

ラ

シ

步

≥

吾

Ż

ッ

ッ

林

廣袤

数里

亙

リ

雀島迄

Æ ぉ゚

續

イ Ä

テ

居

ガ Æ 發 混 テ居 テ 居 ſν ガ w 少 イ 割

ボ゜ 類ノ 鱗莖ヲ掘リ出 1 數 中 ネ ナ jν 教授 採集 道 ヲ作ラズ無性的ニ繁殖シ居ル事ヲ全員ニ Hypnum 長 ୬ 特二 テ 1 其レニ 事 丈 專 ŀ ケ Schreberi 員 テ = 就テ話サレ又樹下ニ多数ア ヺ 色 集 Þ ヌ = 1 植 ヲ取上ゲ之ハ全ク「 Saxifraga 物 jν 樣 ガ = 採 集 ハ ナ サ granulata ラ v 夕

花旣 島 雀島 內 はしどい及ラ 散リ 巡 植 見 物保護 失 シ タ島 テ 地 內芝生 葉 デ n アル ヌ ヲ ガ 力 宿 毛 ラ 氈 シ r ァ 4 居 花盛 如 警 ク布キ 察派 Ø ガ リデ紅紫黄白 石南花、 出 所 ヌ 櫻 御 ャ 梨 ŋ

植 物 採 集 記 以 Ŀ 植物 就 テ御 話 シ Þ 在 n 櫻

(墨刷繪ハガキニ據ル)

何

Æ

白

ナ

ガ

植

デ

此

景

IJ F. IJ ラ放

競

ヲ 鬪 力

N

7

餇

テ 7

n

孔

雀

ガ

寂

ヲ

チ ヲ

科

學 Ŀ

ノ境

ラ

境 テ

= 心

ガ デ 飛ど 仙 境 離 樣 v ル様

ナ氣

持 ナ ケ ダ = 放 シ

Werder ノ質ざくら其花滿開ノ狀

= モ

デ

此

H

比

見 力 テ

花

赤

味

ガ 培

ナ

イ

ラ

ァ

栽

サ

居

ガ

Ш

テ

N 劣

所

ガヌ 反 テ宜 ヲ ガ Æ 廿 7 多 ヲ イ 來 力 力 ガレ 酸 テ 味 居 用 3 後 ガ iv イ ۲ 7 方 宜 ガ

カ

ラ石

南

何

æ

外

來

植物

デ

È

=

印度及ア

×

y

力

7

ダ

y

,

種

7

改良及雜

種

デ

7

w

ŀ

1

事

デ

ァ

N

ガ

H

本

ナ

١,

ラ

v

又

シ

1 v

デ

ァ

n

岸 才 云 ウェ 餘談 本 , デ 花見 (八兎 (Werder) ŀ 角 同 公平 ジ ク ガ 矢張 附近 7 眼 力 櫻 , ラ 覓 丘 見 物 陵 シ ラ外國 ガ テ = 都 ハ 其 數 人 プ櫻 士 至 = = = 3 颪 如 ŋ ŋ Æ 或美 此 此 地 等 サ = , デ ガ 行 櫻 7 ۸ ガ H 他 N 本 果 ŀ 云フ 酒 樹 = 事 醉フ 比 ŀ 混 ハ ナ 間 テ シ F." 違 ø デ テ 植 ナ ハ ٠, ケ イ Z, ナ w ラ ィ 所 矢 v ナ 張 テ ١, 7 ハ IJ 1 日 花 フ 本 時 ŀ 實 建ヒ 美 ハ ナ ž

洲 處春 Æ レカラ 來 春 見 テ和 ヲ Laburnum vulgaris 獨逸 飾 は 名ヲ金鎚花ト n 大切 どい 美 ヲ 飾 獨逸語 ŕ N 樹 Goldregen 花 デ 樹 呼 ァ デ ٧٠ n デ Echter Flieder ν 此 元來 テ ハ v 其名 ハ植 居 高 N 物學 三背 Щ 植 物 力 上三 ナ ズ黄金色 デ ኑ 7 一種ア ŀ ルガ今 呼 ン r デにはとこ 枝モ ÷ ガ主。 Syringa vulgaris 到 ヌ n 處 ワハニ殴キ亂 = 栽 Flieder 培 セ ラレ ŀ v 叉ト n 品 此 デ 别 ァ ナ 小 ス ŋ 灌 jν N 叉孔 誠 木 ガ 赤 ハ = 雀島 疾 美 、紫、白 7 **≥** 我 1 邦 等 Æ 3 ナラ j 植 デ 花 7 物 ズ ガ 到

力 云 デ ラ 7 フ 雀 接木 ガ 島上ニ 氼 n ヲ (Tilia 1 之 斯 飲 ハ 獨人 7 ŀ Ì 3 ŀ ハ 言 料 platyphylla) ェ 叉 國 ラ 理 テ 保存 種 ŀ ヲ ハ大變此 y ク ·普通 タベ ン ス ŀ デ サ , 雜 Ŧ Aesculus Hippocastanum Quercus pedunculata 冬リ ノハ 樹 種 ウ N 伯 ヲ N A. carnea 即チ桃 獨 好 ムス 林 レ デ 逸 3 1 料理 入 全主 L 甚 店 cordata) にノ庭ナ 植 シ 力 化物教室 ク好 ン 色ノ花 及 ぺ آ ا ノニ L ス ع 即 所 ノと ŀ ラ開 デ 種 sessiliflora チ IJ ハ ら 花 ァ ガ ろ 面 植 クとちョ ガ w 白 何 = x 7 とち デ赤 植 ラ v 工 Æ z n. v 岌 Æ 此 0 テ テ ŋ 種 赤 黄 Š 呼 居 7 ス 稱 デ 花 班 v ャ ハ N 獨逸 獨 とち ガ , ス ガ 夏 n 7 逸 ガ Æ 事 語 稀 , y 內 N 0 デ É ン æ 種 デ デ 樹 ァ デ ヲ ナ , Rosskastanien 大 , v 云 類 イ 基 ラ 木 方 ガ 部 事 ガ 多 因ニ ガ ソ 多 小 Æ シ ィ、 後者 接木 7 ク テ 1 ナ 此 ŀ y (直譯 樹 云 レ イ 叉獨 所 痕 雜 フ デ ガ 事 デ 謂 種 = 馬 逸 見 デ デ ハ 夏 7 ラ ナ F. 7 1 1

片付ケテアル

ト云 ル ノデ孔雀島上ニモ グ レリ ブネル教授ニョレバ八百年以上ノ樹齢ヲ持 ッテ居 jν Æ ノガ 7 ŀ

予等ハ島内ヲ巡見シナガラグレーブネル教授ノ「アイへ」ノ話ャ又芝生ノ上ニ可ナリ多數ニ見出サレタ胎 生ズル禾本科ノ一種 ト稱スル植物ハ眞夏頃花盛リデ獨逸人ナドハ其ノ花見ニ遠足ニ出掛ケルガ日本ナドニハ見ラレヌ花見デアル 、花ノ咲イタ Genista pilosa 等ヲ採ッタ此處カルナモ澤山 テデアル Poa bulbosa ナドノ話ヲ聽キ其レカラ又島内ノ一小部ニアル「ハイデ」狀ノ處ニ至リ已 アッタガ時期尙早ク乾枯シテ居ッタ、 因ニ此カルナ 第ョ

〇おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テ あぢさゐニ對スル和名ナリシカ

田武太郎

未

完

澤

參照)ソコデ Otaksa ハあぢさゐノ方言デアッタロウトノ想像ガ起ッテ來ル P. F. Siebold ト J. G. Zuccarini トノ共著 Flora Japonica 第一卷(1835 我天保六年出版)百〇五頁ヲ繙イテ アル、尙其五十二圖版ニ就テ見ルニ此學名ニ譵スル植物ガあぢさゐデアルコト疑ノ餘地ガナイ(次頁ノ寫真 ルト Hydrangea Otaksa ノ新學名ト之レニ對スル原記載ガアリ叉其百〇六頁ニ至リ Nomen Japon. Otaksa

おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ劉スル和名ナリシカ

[1923].)ト放言シテ居ルガ、大正十五年再版ノ吳秀三著「シーボルド先生」ノ書ニハ次ノャウニ之レガ簡單 Japanese scholars fail to understand its derivation (Journal of Arnold Arboretum, Vol. IV. No. 1, p. 237

此點ニ關シテ E. H. Wilson ハ疑ヲ以テ Siebold's name "Otaksa" is

not used in Japan today and